

## アルバム作成が持つ愛着増進の効果に関する心理実験について

大阪教育大学 城戸楓

大阪教育大学 小崎恭弘

### 目的

写真やアルバムは、家族の歴史として過去の記録を残すために多くの家族において用いられてきた。それはデジタル技術が発達し、紙媒体としてアルバムを残す必要性がなくなった現在においても同様である（小崎・城戸・石田, 2017）。本研究では、こうしたアルバムを見ること、保存することの他に、アルバムを作る行為そのものにどのような効果があるのかを検証することを目的とする。

このアルバム作成における効果について、本研究では心理実験を用い、特定の子どものアルバムを作成することによってアルバムを作った者が、写真に映っている子どもに対して愛着を抱くようになるのかを検討した。

### 方法

被験者： 大学生の男女（42名）

手順：

心理実験は2つのフェイズがある。最初のフェイズは親和フェイズで、被験者は1：特定の子ども（愛着対象児童）の写真を見て記憶する（統制条件）、2：愛着対象児童の写真を用いてiPad上にデジタル写真アルバムを作る（デジタルアルバム条件）、3：愛着対象児童の写真を用いてアナログ写真アルバムを作る（アナログアルバム条件）、という3つのグループに分かれる。

次のフェイズはテストフェイズで、このフェイズでは被験者すべて IAT (Implicit Association Test : 潜在的連合テスト) を行う。IAT では、被験者ははじめに児童（愛着対象児童 or 統制児童（親和フェイズで見たことのない児童））の写真が PC モニタ上に表示される。写真が消えた後、2文字の熟語が表示され、被験者はその熟語について、ポジティブもしくはネガティブな意味を持っていたらボタンを押し、どちらでもなければボタンを押しさないという Go-NoGo 課題と呼ばれるテストを 90 試行実行する。ポジティブ語、ネガティブ語、ニュートラル語はそれぞれ 30 語構成されており、各語の先行刺激としてそれぞれ半数は愛着対象児童が、残りの半数で統制児童が表示される。

仮設

IAT では潜在的に好意を持つ刺激が先行して提示されていれば、Go-NoGo 課題のニュートラル語の反応時間に対して、ポジティブ語に対する反応時間が短縮される、もしくはネガティブ語に対する反応時間が遅延することが明らかになっている。テストフェイズにおいて愛着対象児童が先行提示された場合のほうが、統制児童が提示された場合よりもこの効果が大きければ、学習フェイズにおいて愛着対象児童への愛着が形成されていたことが明らかになると考えられる。これらの効果を、アルバムを作っている群（デジタル or アナログ）とただ児童を記憶しただけの群で比較する（結果は後日発表を行う）。